

# 資料館だより

2023年 春号

## contents

館長あいさつ	1
イタイイタイ病の教訓を次世代へ	2
トピックス	2
四大公害病を語り継いでいくために	3
資料館の語り部さんです	3
ニュース	4
資料館インフォメーション	4

令和5年  
2月19日

## 「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」開催!



開会挨拶 蔵堀祐一富山県副知事



富山大学教育学部附属小学校 4年生



富山国際大学イタイイタイ病研究会(子ども育成学部2年生)



特別講演 窪田亜矢氏



富山市立宮野小学校6年生

## コロナ5類感染症への見直しによる来館者数増加に期待



富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田 八 嗣

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の取扱いについては、今までは新型インフルエンザ等感染症に位置づけられ、外出自粛要請など2類よりも厳しい措置がとれるほか、緊急事態宣言のような強い行動制限ができるよう定められていました。今回、ウイルスの変異により重症化率や死亡率は低下し mRNA ワクチンや抗ウイルス薬の有効性も確立されたことから、COVID-19は本年5月8日から新型が名称から削除され2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類感染症に見直されることになっています。

コロナ禍は、対面によるコミュニケーション減少とともに人々に孤独や孤立そして不安をもたらし、社会経済活動に大き

な影響を及ぼしました。当資料館でも、行動制限や自粛要請などで来館者数はコロナ前に比べて半減しました。一方、コロナ禍は、良きにつけ悪きにつけデジタル化推進を加速させました。当資料館におきましても、今後のデジタル化推進に向けて、老朽化したシステム改修とVR（仮想現実）を導入し、AR（拡張現実）導入についても検討を進めてまいります。あくまでもこれらVRやARなどのバーチャル空間の充実が資料館の補完的ツールと考えております。

今後は、コロナ5類感染症への見直しを機に、できるだけ多くの皆様に当資料館に実際に足を運んでいただき、イタイイタイ病の恐ろしさや環境と健康の大切さを学んでいただきたいと思います。また、環境に配慮した持続可能な開発目標（SDGs）についても考える機会にしていいただければ幸いです。

# イタイイタイ病の教訓を次世代へ

2月19日（日）に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を資料館隣接のとやま健康パーク生命科学館オープンスペースにおいて開催し、会場とオンライン合わせて約150人の参加がありました。

第1部では、蔵掘副知事の挨拶の後、今年度に資料館で学んでいただいた皆さんから発表していただきました。富山大学教育学部附属小学校4年生の皆さん（6名）は、萩野医師に着目して学んだ成果を「イタイイタイ病と闘った萩野先生が教えてくれること」をテーマとして寸劇を交えて発表し、「二度と公害を繰り返さず、美しく豊かな環境を引き継ぐことが私たちの使命」と訴えました。次に、小学校教諭を目指す富山国際大学イタイイタイ病研究会（子ども育成学部2年生）の皆さん（9名）は、「イタイイタイ病の次世代への伝承について」をテーマにAR（拡張現実）の活用を提案しました。3番目の発表は、富山市立宮野小学校6年生の皆さん（48名）の予定でしたが、インフルエンザの流行のため出演がかなわず、録画したメッセージと「変わらないもの～わたしたちのふるさと宮野～」をテーマとした創作劇の上映となりました。それぞれの発表により会場は感動の渦に包まれ、参加者全員がイタイイタイ病について考えるよい機会となりました。

引き続き、野田館長が当資料館の今年度事業を報告しました。

第2部は、東京大学生産技術研究所の窪田亜矢先生に「イタイイタイ病被害地域から学ぶ公害対応」の演題で特別講演をしていただきました。住民と原因企業、行政がともになって健康被害と環境被害を克服してきたイタイイタイ病の歴史を手がかりにして、福島放射線除染や復興を模索する現況を話され、参加者は興味深く聴講していました。



ARを使って立体的に表示するアイデアを発表



参加者にAR教材を説明する大学生



富山大学教育学部附属小学校4年生による寸劇

## 参加者の声

子どもたちの発表は、イタイイタイ病のことを「知る」そしてそこから「考える」が伝わってきました。（会場 30歳代）

どの団体の発表もすばらしかったです。イタイイタイ病という過去についてしっかり伝えることを通して未来に引き継いでいかなければならないことを改めて感じました。（会場 40歳代）

宮野小学校の発表は素晴らしい涙が出そうになりました。生で観たかったです。イタイイタイ病を学習した子どもたちと指導された先生方に感謝します。（会場 60歳代）

イタイイタイ病ほど公害対応がうまくいっている例はないと感じました。今回の窪田先生の講演のように、福島の事例と比較すると全国の方にも分かりやすいと思います。（オンライン 30歳代）

学生さんの発表は、随分勉強されたことが伝わる内容でした。窪田先生の講演は、福島の被害の大きさを感じられ大変に参考になりました。（オンライン 50歳代）

## トピックス

### 環境省職員が資料館などで現地研修

12月15日・16日（木・金）の2日間、環境省職員を対象にした「環境問題史現地研修（富山コース）」が環境省主催で実施されました。

冷たい雨が降る悪天候の中でしたが、多くの職員の方が参加され、当資料館のほか、清流会館や復元田などの関連する現地を熱心に見学し、イタイイタイ病の被害の実態と克服の歴史について理解を深められました。



参加者全員でグループディスカッション

### インドの大学生が資料館を見学



インドの大学生の皆さん

1月24日（火）、富山県の友好提携都市インド・アンドラプラデシュ州の大学生と教授13人が当資料館を見学されました。

3つの大学から薬学やバイオテクノロジーを研究している学生が富山県に5日間滞在して、関連施設の視察などをされる中での来館でしたが、コロナ禍で国外からの来館者が減少している時期に、久しぶりの外国語による案内となりました。



# 四大公害病を語り継いでいくために

## ●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

10月29日（土）、四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）各資料館の語り部が富山県に参集し、「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催したところ、会場とオンラインを合わせて50名の参加がありました。

「水俣市立水俣病資料館」語り部の杉本肇さんは熊本県からリモート講話をされ、祖父、祖母に続き両親までが発病したため、家に取り残された幼い5人兄弟が辛い思いをした小学生時代を振り返り、「病気の原因が明らかでない時期は差別の歴史だった。そのような偏見を払拭するために活動を続け、子供たちには公害病の正しい情報を学んでほしい」と話されました。

「新潟県立環境と人間のふれあい館」語り部の水澤洋さんは、小学4年生夏の朝に頭痛などの症状が現れたが周囲から理解してもらえず、人権侵害に翻弄された苦悩の日々を語られ、「他人の苦しみ、悲しみを理解する優しさが社会の基本であり、人間の尊厳を踏みにじる差別や偏見は罪悪行為である」と訴えられました。

「四日市公害と環境未来館」語り部の伊藤三男さんは、四日市公害裁判を支援してきた立場から公害の歴史と現状を話されました。開館当初8人だった語り部が物故者や高齢勇退で減少し、現在は3人になり語り部活動継続が課題と話されました。

「富山県立イタイイタイ病資料館」は、語り部の高木良信さんの体調不良のため、本人から事前に聞き取りした話の内容を披露しました。イタイイタイ病で亡くなった母親や当時の被害地域の人達の思い、提訴に踏み切るまでの経緯や社会情勢と裁判闘争のエピソードを紹介して、イタイイタイ病対策協議会顧問の高木勲寛さんに解説を加えていただきました。



杉本肇さん



水澤洋さん



伊藤三男さん

四大公害病 各資料館の語り部さん



柴田副館長と高木勲寛さん



野田館長と小松雅子さん

意見交換会

集いの後半は、4人の語り部の方々にイタイイタイ病対策協議会会長の小松雅子さんと当資料館の野田八嗣館長が加わり、「公害の教訓を環境教育に活かす」をテーマに意見交換を行いました。各資料館では環境教育の講座や事業もそれぞれに実施されており、語り部講話の中でも環境問題を折り込みながら公害の教訓を伝えているとのこと。「公害被害の真実の声を届ければ、子どもたちに環境保全の裾野が広がっていく」「今はSDGsの目標⑯つくる責任つかう責任を考える時代であり、自然環境を守ることの大切さを伝えなくてはならない」などの意見がありました。

パネリストの小松さんは「身近にある山、川、小動物を通して、命の大切さや自然環境とのかかわりかたを子どもの頃から育むよう、語り部としてしっかり伝えていかなければならない」と助言されました。

## イタイイタイ病を語り継ぐ 資料館の 語り部さんです

今回は「語り部による伝承会」でも披露した高木良信さんのエピソードから一部を抜粋して、イタイイタイ病裁判以前の地域や住民の様子を紹介します。



たかぎ りょうしん  
高木良信さん(92歳)

### Q1 お母様 よしさんの発病から闘病生活の様子をお聞かせください。

母は1950年（昭和25年）春頃から歩行時に痛みを覚えるようになり、湯治療養のために八尾の高熊鉱泉へバス停からおぶって送迎した。1952年（昭和27年）暮れには寝込むようになり1955年（昭和30年）8月に県立中央病院に入院したが、その年の12月に62歳で亡くなった。主治医からの申入れがあり母も承諾していたので剖検をしたが、イタイイタイ病の病理解剖1号となった。

### 高木良信さんのプロフィール

1966年（昭和41年）の「イタイイタイ病対策協議会」設立当初から副会長を長年務められました。病気で亡くなった母の遺族として1968年（昭和43年）の第一次訴訟の原告に加わり裁判を闘い、患者救済や現在も続く発生源対策に取り組んでこられました。

### Q2 当時は、この病気に対する地域の人の思いはどのようなものだったのですか。

私が小学校に入った頃、同居の祖母も同じ症状で4年程寝込んで72歳で亡くなったが、祖母もイタイイタイ病だったのだろうかと思う。その頃のこの地域の人達は、田圃で働いて年をとったらあちこち身体が痛くなり、動けなくなって死んでいくものと思っていた。鉱毒により病気になるということは、医者でも判らなかった。

### Q3 1968年(昭和43年)に提訴に踏み切るまでの経緯を聞かせてください。

1966年(昭和41年)の夏に地区住民が集まり、萩野昇医師と小林教授からカドミウム原因説の話聴き、神通川の水を使用している所は誰がイタイイタイ病になっても不思議はないのだと分かりました。鉱山に罪を認めて謝罪させようということになり、「熊野地区イタイイタイ病対策協議会」がその年の11月に結成され、司法の場で決着をつけようと決意し弁護士とも相談して提訴しました。

## イタイイタイ病研究会から 書籍が寄贈されました

1月31日(火)、市民グループのイタイイタイ病研究会から当資料館に、会員3人で執筆された書籍「いのち戻らず大地に爪痕深く 神通川流域民衆史」が寄贈されました。

イタイイタイ病と戦争の関わりや神通川流域で暮らした人々の歴史をまとめた書籍が野田館長に手渡され、館長は「いただいた本を活用して伝承活動に力を入れたい」と応えました。



書籍を手渡す出筆者



## 神通川清流環境賞の表彰式がありました



表彰式会場の受賞者



最優秀賞の8名

「神通川清流環境賞」の表彰式(神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会とイタイイタイ病対策協議会が主催)が、2月25日(土)に富山県国際健康プラザで行われました。

5回目となる清流環境作文コンクールには、課外学習などで当資料館を訪れた小学生などから993点の応募があり、選考審査の結果、個人賞部門で最優秀賞8名と優秀賞18名の受賞者に表彰状と盾、記念品が贈呈されました。また、学校賞の小学校2校と学級賞の35学級が表彰されました。

来年度も同作文コンクールは実施されます。

## 資料館インフォメーション

### 令和4年度 下半期の行事経過

令和4年

10月29日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い  
～語り部による伝承会～

令和5年

2月19日(日) イタイイタイ病を考える  
県民フォーラム

### 令和5年度 上半期の行事予定

4月28日(金)～5月7日(日)

春の特別企画展

「あの日あの時」写真展

4月29日(土・祝) 春の特別講演会

6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会

7月下旬 夏休み自由研究講座

8月上旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、ホームページ等でお知らせします。

### ○語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体(原則10名以上)で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。(来館される3週間前までにお申し込みください。)

※詳細は資料館ホームページをご覧ください。

### 春の特別企画展

## 「あの日あの時」写真展

日時：4月28日(金)～5月7日(日)

場所：イタイイタイ病資料館内

## 課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

令和5年3月24日(金)より募集を開始します!!

新年度も多くの児童・学生にイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、より利用しやすい内容となっています。

利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

### ○メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】